



変えていこう 学校のかたちと業務のかたち

これまでの学校教育は、高い専門性をもった学校職員が幅広い業務を担い、子どもの状況を総合的に把握して指導し、高い成果を上げてきました。

その一方、近年の社会変化により学校では、教育課題が複雑化・多様化しているため、全国的に教員の長時間勤務という実態となって表れてきています。

そこで、大崎町教育委員会では、このような課題に対応するため、昨年度に引き続き業務内容の見直しを図りました。今年度は、以下の7つの点を中心に業務改善を推進します。

■大崎町立学校の業務改善推進策

- 改善策 1** 昨年度までに精選した会議及び行事等をさらに見直し、回数を減らしたり開催時間を短縮したりして、業務の簡素化と効率化を図ります。
- 改善策 2** 各学校における取り組まれている職員研修を合同で開催できるよう設定し、準備の負担を減らしつつ内容の充実を図ります。
- 改善策 3** 夏季休業中(お盆期間)を中心に、学校閉庁日を設定し、学校職員のリフレッシュ期間とします。
- 改善策 4** 学校職員の勤務時間管理の徹底を図り、一人一人の働き方に関する意識改革を図ります。
- 改善策 5** メンタルヘルスチェックを全職員に行い、心理的負担の強い職員については、産業医の面接を勧めます。
- 改善策 6** 不登校問題や特別な支援を要する子どもへの支援に対応するため、外部の専門家と連携し、「チーム学校」として組織的な対応に努めます。
- 改善策 7** 特色ある教育活動を充実させるため、地域の皆様や大学、専門機関等の人材を活用した取組を進めます。

まぶい窓おしの庭 言葉のもとに人あり

No.54 元大崎町外国語学習支援員 松井 久美子

「チンチョン」。ケニアにいたころ、どこに行ってもこう声をかけられました。これは主に中国の人に対する蔑称とされていて、言われるととにかく腹が立ちます。「それは大変失礼な言葉だからやめてほしい」と何十回、話して回ったかわかりません。「挨拶だと思ってた」「中国と日本って一緒じゃないの?」「外国の人だから、何か話したかったんだよ」。話すと、大抵の人はバツが悪そうに答えてくれました。

「知らない」ということが、「チンチョン」のような誤解やあつれきを生んでしまうことがあります。私たちはどうでしょう。イランとイラクの違い…よくわかりません。イスラム教…テロ。アフリカ…貧しくて危険。ケニアの人と同じように、よくわからないものは、色眼鏡で見えてしまいがちです。

大崎町に素敵な景色があり、温かい人情があるように、私たちの知らない世界にも、素晴らしいこと、面白いことがたくさんあります。

この1年、明るく、素直で、とても優しい大崎の子どもたちに支えられて、外国語教育の支援をしてきました。ずっと残念だったのは、ほとんどの子が「海外は恐いから行きたくない」と言うこと。何も行かなくてもいいのです(本当はいつか、自分の耳で聞いて、目で確かめて、心で感じてほしいけれど)。でも、まったく違う文化や人を知る楽しさやわくわく、そしてまた自分たちの文化を伝える面白さが、言語を育てる土台だと私は信じています。きっとどの子にもあるそうした好奇心を、私たち大人が、大きく、広く、伸ばしていけたらと願っています。

Milima haikutani lakini binadamu hukutana.

山と山は出会わないけれど、人と人は出会うことができる。(スワヒリ語のことわざ)